



追悼 和中勝三会長

2013年(平成25年) 11月 13 日 日本ALS協会近畿ブロック会長の和中勝三さんがお亡くなりになりました。

皆様からの数々のご支援に深く感謝申し上げます。
和中学長のお通夜・告別式に参列、また献花、弔電、メッセージをいただきましてありがとうございます。
患者さんでは長尾義明日本ALS協会会長、杉本孝子近畿ブロック副会長、地元の在宅人工呼吸療養の林静哉さんが参列いただきました。

ご本人の「人工呼吸器をつけて生きられてよかった」というメッセージが喪主の育美様から紹介されました。

誰からも愛され、大切にしてください、幸せな人でした
夫・和中勝三は、2013年11月13日午後6時40分、ALSのため旅立ちました。享年64。長い闘病生活の間、何度も奇跡を起こしてくれましたが、今回願いは届きませんでした。

よくがんばったね、御苦労さと言ってあげたいです。
家業を継いで10年目、やっと仕事にも慣れて一人前という41歳のとき、ALS という難病を発病しました。食べること、話すこと、歩くこと、呼吸することもできなくなる残酷な病気です。

余命2～3年と宣告されたとき、子どもたちの成長を見たい思いで、人工呼吸器とともに生きる第二の人生を選んでくれました。

23年の闘病生活のうち、18年間は人工呼吸器を着けての生活でしたが、子どもたちの足手まといにならないように、子どもたちにできないことをしようと思いました。何か人の役に立てればと思い、同病者の方々の相談に乗ったり、学校へ講演に行ったりしていました。たくさんの方々から御縁をいただき、たくさんのすばらしい経験をさせていただき、充実した毎日を過ごしておりました。

夫は誰からも愛され、大切にしてください、幸せな人でした。心よりお礼申し上げます。

まだまだやり残したことがたくさんあったと思いますが、ここでゆっくり休ませてあげたいと思います。

私はALS という残酷な病気になり、人工呼吸器を着けて生きる道を選びました。辛いこともあったが、楽しいことのほうが多かった。人工呼吸器を着けたことを後悔していません。家族の一員として生活できたこと、子どもたちも一人前に成長して孫の顔を見ることができました。そして、大勢の方に出会えたことに感謝です。

長い間、皆様には私自身が望む看護・介護をしていただきました。

そして最高の治療を受けて生き延びました。

もうこれくらい辛抱すれば、死んでも悔いはないです。

皆様に感謝しています。

これからは残された家族、力を合わせて生きてまいります。皆様には変わらぬお力添えをお願いいたします。

妻・和中育美



和中さん ありがとうございます

和中勝三さんは41歳のとき、ALSを発症しました。魚屋さんを夫婦で営むごく普通の生活が、一気に暗転しました。告知は妻の育美さんにされました。ご本人が46歳のときに、育美さんは本人に告知をしてほしいと医師に頼みました。

「46歳でALSの告知を受けたときに、せめて55歳まで生きていたいと泣きました。死ぬのがとても怖い。子どもも小さいし、あと5年でもいい、いまの家族と一緒に生きていたい」と、呼吸器を付けることを決意しました。

胃ろうを造り、人工呼吸器を装着してからは、車いすに呼吸器やバッテリーをのせて外出を始めました。看護学生さんたちに講義の出張もしました。自分が苦しんだことを後から来る患者さんに味合わせたくないという気持ちから、近畿ブ

ロックの会長も引き受けていただきました。同病患者さんの相談を受け、自宅にも招き、ネットでも多くの患者さんとの交友を楽しみました。

23年間の闘病期間を終えて、享年64。お疲れさまでした。ありがとうございました。



総会でボランティアと文字盤で会話する
和中さん

「人工呼吸器装着者はすごく神経質で強情な人が多く、自分の意見をハッキリ言います。私もその中の一人です。（笑） ALS患者は難しい人だと思わないようにしてほしいです」

平成21年 和中さん60歳のとき

「呼吸器をつけて15年も生きていれば、つらいことが多いですが、そのつらさを忘れさせてくれるようないいことが“きっと”あります」

（会報64号「お父さんとヴァージンロードを歩くのが夢でした」）





伝 意志達装置（オペレートナビ）と携帯用会話装置レッツチャットを併用していました。そしてテレビ大好き人間を自称していました。



和中さんを偲んで

お魚屋さんの和中さんに親近感

橋本みさおさん（東京都・近畿ブロック顧問）

訃報に接し心を虚しくしています。漁師の娘だからでしょうか、お魚屋さんの和中さんには、持ちすぎる程の親近感がありました。

誰よりも早く被災地支援をしてくださったことは忘れません。いつも心を残しながら大阪を往復していました。ありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

橋本みさお

いつも困ったときの和中さんでありました

杉本孝子さん（奈良市）

和中勝三さまへ

和中さんには長い闘病生活の中で楽しむこと、戸惑う時も共に考えてくださり導いていただきました。

こころより感謝しています。

和中さんはいつも「ニコッ！」と笑顔を返して親しみやすく気遣ってくださいました。計り知れないくらい想像を超え闘っておられたと思います。

ずいぶんと前のことです。どのくらい歳月が流れたのでしょうか。最近のこのように思いますが、いまのようなメールもない時代です。電話でお話もむずかしいですから、その頃、最新の意思伝達装置マックから、和歌山弁のFAXを送っていただいて、和中さんはパソコンを使って絵も描かれて使いこなしておられて、「わっ！すごい！」とメカ音痴には未知の世界！とても驚いたことを思い出します。

和中さんは闘病生活に必要な意思伝達装置の機能のことや家のバリアフリーのことなどアドバイスをいただいたり、気持ちを大切にするように励まして支えてくださり、ありがたいことでした。

物はいつか消え形も変わっていきますけれど、記憶が甦ってきて、あたたかい気持ちになります。お忙しくされておられた奥さまと一緒にいつも困ったときの和中さんでありました。いまでも和歌山にいてくださるような気がしています。

和中さん、本当にありがとうございました。

あなたは本当にたくさんのことを教えてくれました

林 静哉さん（和歌山市・患者）

和中さんを偲んで

私は告知を受けた2001年の頃から、同じ和歌山市内で在宅療養している和中さんの存在は知っていました。しかし、その頃の私は、まだ病気を受け入れることもできず、自分の姿を見られなくなかったし、他の患者さんの姿も見えなかったもので、連絡はとっていませんでした。

和中さんと初めてメールをさせてもらったのは、それから3年後の2004年の頃でした。私は気管切開もして、毎日天井だけを見て、絶望の日々を送っていた時のことです。きっかけは、当時担当の保健師さんが、我が家から和中さんにメ

ールをしてくれたのです。すると、同日に和中山さんから私に返信をくださいました。とても前向きな内容で、これから何でも相談にのりますので、いつでもメールくださいと書いてくれていました。

不自由な体で長いメールをくださり、和中山さんの強くて優しい人柄が、伝わってきて心うたれました。

それから少しずつ、メールのやり取りをするようになったある日のこと、和中山さんから、訪問マッサージの日を一日私に譲ってくださるということです。同じ先生で、和中山さんもそのマッサージはおすすめでした。自分はもう落ち着いているから、少しでも林さんが楽になるのならとのことで、もうマッサージの先生にも和中山さんから言ってくれていました。その頃の私は、全く気持ちに余裕がなく、自分のことで精一杯だったので、私のために、ここまでしてくださるこのメールはとても有り難く、今も印象に残っています。

和中山さんは、常にあとに続く患者のためにとの思いで、色々な活動をしてくださいました。和中山さんは近畿ブロックの会長としてのご尽力はもちろんですが、同じ和歌山市内で和中山さんがいてくれたことも私にとって何より有難かったです。和中山さん、初めてのメールのやり取りから約10年で終わってしまいましたが、交流会、花見、和中山さんのお宅での忘年会、音楽療法、看護学校、大学生との交流会、夜遅くまでしていたチャット等々思い出は尽きません。

特に忘年会の事は今でも忘れられない思い出です。家族と他の皆さんはてっちりを食べ、私と和中山さんはラコール！これじゃ普段と何も変わらない、せめてだし汁を入れて欲しかった。(笑)

また看護学校に連れて行ってくれたり、大学生との交流会に誘って貰ったお蔭で、いまでも交流が続いています。これらの事も生きる力になってるのは間違いありません。それから2年前に妻の入院に伴い初めて一人で入院する事になりました。その時も、ご自身が入院中の身でありながら私の事ばかり心配してくれていたと聞きました。

和中山さんはどんなに自分が辛い時でも他人への気づかいを忘れない優しい方でした。今私が生きて、息子の成長を見られるのも、和中山さんあなたの存在があったからこそです。あなたは、本当にたくさんの方のことを教えてくれましたね。生きる喜び、生きているからこそ味わえる楽しさ。また、あなたのお蔭で、いろんな人との出会いがあり、それが私の生きる糧となっています。本当にお世話にな

りありがとうございました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

在りし日のあなたの笑顔忘れずに俺もなりたや貴方のように

林 静哉 拝

ほがらかな気のいいおっちゃんという感じでした

中江康智さん(大阪市)

和中さんを偲んで

和中会長とは近畿ブロックの総会・交流会でお会いするぐらいでしたが、いつもニコニコと笑っていらっしやる、ほがらかな気のいいおっちゃんという感じでした。

うちに来る訪問看護師さんから、昔のALS患者さんはたいへんだったと聞きます。人工呼吸器も今の保険適用の前に適用外医療機器で200万円ぐらいする高価品で、患者さんが各自実費で購入され、呼吸器の回路の消耗品関係も苦労の連続だったと聞きました。

おまけに介護保険もない世界で呼吸器装着の決断は、今の我々の決断の比ではなかったと思います。「私の前に道はない。私の後に道ができる」を私達に身を以ってお示しいただいたと思っています。ありがとうございました。

ご家族の皆さまも和中さんをガッチリサポートされてお疲れさまでした。和中会長の笑顔を思い出しながら、心よりご冥福をお祈りいたします。

和中さんに助けてもらった経験があります

増田英明さん(京都市)

私は、ALSの大先輩である和中さんに助けてもらった経験があります。

私が呼吸器をつけて間もない頃、エンシュアを胃ろうから入れた後、頻脈で息苦しさを感じていました。食後の度に苦しくなりました。

その時、和中さんにメールで相談をしたのです。

和中さんから、すぐにご親切なメールが届きました。

「呼吸器の呼吸回数を増やしてもらるか、換気量を増やしたらどうか」という助言を頂きました。

主治医が換気量を500→550に変更してからは、やっと息苦しさから解放されました。

和中さんに親身になって心配して頂いたこと、忘れることはありません。和中さんのご冥福をお祈りいたします。

増田英明拝

長淵剛の「巡恋歌」を大声で歌ってらっしゃるのでは

樋上 静さん(奈良市保健所)

「ダンディで、つるっと卵顔の紳士。いつも周りに人がいるし、寄ってくる」
私が和中さんに最初にお会いしたときの印象で、10年以上たった今も、全く変わっていません。なぜか話したくなるし、会いたくなる、そんなお人柄にいつも安心感を感じていました。

奈良から看護学生さんと一緒に、ご自宅にうかがった時のことです。和中さんの居室に「こんにちは！」と入っていくと、長淵剛の曲が大音量で流れ出しました。レッツチャットを環境制御装置として使っておられ、出迎えの曲を流してくださったのですが、強烈なインパクトがありました。家に帰ると和中さんから「天井を見ての生活は別に不幸せではない。大切な家族に囲まれて、住み慣れた家で暮らすことはいいものだ」といった内容のメールが届いていました。

私のALS観、在宅療養に対するイメージが書き換わった一日でした。
平成17年3月に、一定の条件下で家族以外の者による痰の吸引の実施を認める通知が厚生労働省から出たのですが、呼吸器をつけて在宅療養される方が少なかった奈良県では、吸引に対応していただけるヘルパーさんが少なく、困っていました。和中さんはじめALS協会にご協力いただき、翌年、奈良市の市役所の最上階で、家族以外のものが行う吸引についての研修会を実施しました。

和中さんと東京から橋本操さんが講師として、いらしてくださいました。400名近い参加者が、お二人のパワーあふれるお話に口をあぐり開けて、聞き入りました。参加者であるヘルパーさんやケアマネさんの中で、これまでのALS患者像が音を立てて崩れていった様子が見て取れました。私の心がブルブルと感動で震えたのを昨日のことに思い出します。研修後、吸引に対応いただける事業所がどんどん増え、当事者が語ることの大切さと威力を実感しました。

和中さん、本当にお疲れ様でした。お会いしたときは呼吸器だったので、私は和中さんのお声は知りません。でも、きっと今頃、長淵剛の「巡恋歌」を大声で歌ってらっしゃるのでは そう考えただけで、また、あたたかい気持ちになります。ありがとうございました。ご冥福をお祈りしています。

笑顔がとても素敵で忘れられません

八百圭子さん
和中さん ご無沙汰しておりました。会報の件で事務局にメールしたところ、昨日、和中さんが永眠されたこと知りました。大変驚きました。お年賀メールの笑顔がとても素敵で忘れられません。長い闘病生活、お疲れさまでした。ご冥福を

御祈りいたします。 合掌

13/11/20会員の八百圭子

続く者はいろいろな恩恵を受けることができました

加藤豊子さん（遺族）
和中勝三さまには御生前直接お目にかかったことはありませんが、近畿ブロック会報の「すばらしいなかまたち」のページで、あるいは近畿ブロックのホームページからリンクした和中さんのホームページで拝見しておりました。長い間ALS協会、近畿ブロックの役員として病氣と闘っておられるお姿を拝見し、心の中で応援しておりました。

40歳代というお若い年齢での発症で、新しく始められたお仕事が順調に進む中、さぞ御無念であったこととお察します。最初は呼吸器を拒否され、やがて装着して生きることを選択されました。

69歳でALSと診断され、好きな仕事も一応やりとげていた亡夫は呼吸器を選択せず旅立ちました。またおもてに出ることを大変嫌っておりましたが、和中さまはじめ多くの先輩患者さん、また協会、近畿ブロックの活動のおかげで後に続く者もいろいろな恩恵を受けることができたと思っています。

改めてお礼申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。また奥様育美さまには長年にわたる御介護本当にご苦勞様でした。どうぞお疲れの出ませぬように御自愛下さいませ。

